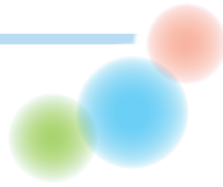


報 告 事 項 3

神奈川県看護協会 ビジョン 2033

10 年後のめざす姿

～将来構想策定委員会報告書を受けて～



あいさつ

公益社団法人神奈川県看護協会 ビジョン2033 10年後の目指す姿

平素より、神奈川県看護協会の事業に、ご理解・ご支援いただきまして、深く感謝申し上げます。

神奈川県の総人口は、2022年に923万人となり、65歳以上の高齢者は25%を占めています。少子超高齢多死社会が加速する中で、保健・医療・福祉体制の再構築が急がれており、変革期となるこれからの10年、神奈川の看護、そして看護職はどうあるべきかを考え、神奈川の看護を支えるための看護協会の在り方として、10年後を目指した将来ビジョンを取りまとめるに至りました。その基軸には、これまで以上に看護職に寄り添い支える、開かれた看護協会を目指したいとの想いを大切に、看護職のニーズに最大限応えられる事業展開に挑戦していきます。

そのためには、看護職や県民が神奈川県看護協会に何を求めているのかを知り、それに応える双方向で、きめ細やかなコミュニケーションを大切にし、会員をはじめ個々の看護職や医療、福祉等の関係団体と連携を深めて参ります。

神奈川県看護協会は、理念である三つの精神^{こころ}の基、明るい未来を創造させる神奈川の風土を大切にした、他の都道府県看護協会をリードできるフロントランナーを目指して前進していく所存です。

引き続きのご支援・ご協力をお願い申し上げます。

公益社団法人神奈川県看護協会

会長 長野 広 敬

はじめに

公益社団法人神奈川県看護協会将来構想策定委員会を立ち上げ、2年間にわたり今後の10年間を見ずえた議論をしました。委員会より令和4(2022)年5月に長野会長へ公益社団法人神奈川県看護協会将来構想策定委員会報告書(以下報告書とする)の提出がありました。報告書をもとに理事会をはじめ、事務局職員とともに内容について具体化を進め、ロードマップを作成して今後の10年間の行動についてまとめました。

I 現状と課題から整理された内容(報告書より)

- 少子高齢化と医療のパラダイムシフトによる価値観の転換により、医療は超急性期の最小の治療期間での入院となり、疾病を抱えながらも在宅での療養が中心の生活となり、在宅医療や在宅療養の需要が高まることが考えられ、地域で働く看護職の需要が高まる。
- 神奈川県は全国的に看護職不足が継続し、急性期医療を中心とした大病院に人が集まり、中小の医療施設や福祉施設、訪問看護ステーションでは、人員の不足が常態化している。
- 神奈川県から業務委託をされているナースセンター事業について、就職件数は横ばいで、抜本的な改革での人材確保事業が必須となっており、積極的な行政との連携事業の推進が必要である。
- 少子化で看護職を目指す若年者の減少が今後加速するため、看護の魅力を積極的に伝え、看護職を目指してもらえるような働きかけが重要となる。
- IT化を進めて、利便性や簡便性等会員や利用者へのサービス向上が求められる。
- 看護協会の活動内容や魅力の情報発信が不足していることから、ホームページを含めた情報発信ツールの開拓が必要となる。
- 今後発生する地震や風水害等による、健康危機管理体制の整備が必要である。

これらの課題を解決するための内容として

1. 社会のニーズに対する看護職の確保
2. 今後の継続教育事業のあり方について
3. 地域における健康・療養支援の強化
4. 健康危機管理対応の強化
5. 組織基盤の強化

の5項目について、公益社団法人神奈川県看護協会(以下神奈川県看護協会とする)の方向性を具体化し、ロードマップ(Ⅲ ロードマップ)にしました。



Ⅱ 今後の活動内容

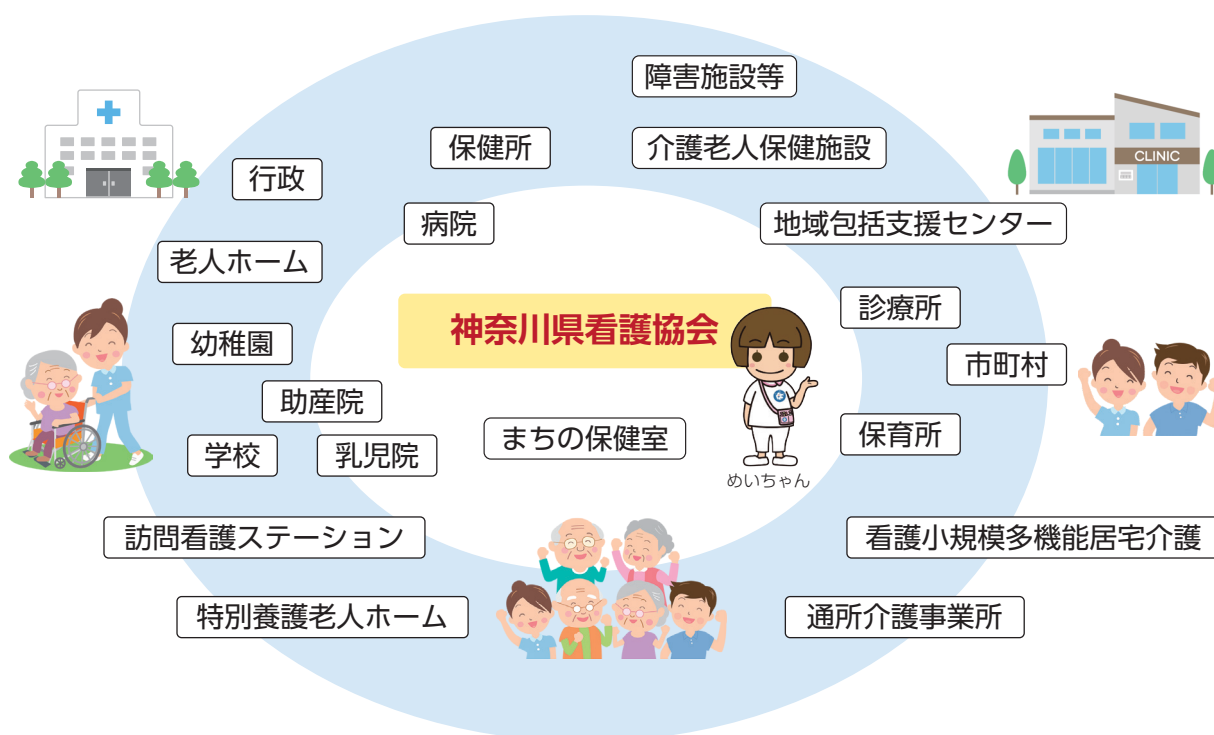
1. 10年後の看護職能団体としてのあり方

コロナ禍の今こそ、看護職の実践知を可視化して社会のニーズや期待に答えられるように看護を発展させていく必要があります。看護職能団体として、看護職への理解と啓発に努めると共に、様々な場で、看護職の持つ力を伝えていく役割を果たしていきます。さらに看護職がキャリアに誇りを持って働けるように、看護職の確保や働き方、給与・処遇問題の課題について県や国に働きかけを継続的に行っていきます。

また、看護職能団体として看護職一人一人を孤独にせず、看護職同士で支援するという仕組みを発展させ、新人看護職や新人看護師長・看護部長等、それぞれの悩みや不安等は職場の中での解決だけでなく、気軽に相談・支援してもらえるようなコンサルテーションやコーチングの機会、相談窓口やピアサポートの場づくり等のサポートシステムを検討したいと考えています。看護職全体をサポートする伴走型支援を積極的に行い、看護職能団体の組織を強化していきます。

10年後のめざす姿！

地域・学び・人を看護がつなぐ
元気な看護職がかながわの健康を守ります



2. 社会のニーズに対する看護職の確保について

神奈川県看護協会のナースセンターでは、神奈川県から業務委託を受けて無料職業紹介所を運営しています。しかし、令和3年度に新型コロナウイルス感染症関係で就業支援を行った看護職（約1,300人）の半数は、ナースセンターでの復職相談や研修、キャリア支援を行っていることを知らない状況でした。看護職をはじめとした多くの人々にナースセンターの役割や機能について、もっと知ってもらうことが必要で、積極的な情報発信を行っていかねばならないと考えます。また、神奈川県内の潜在看護職に関する調査を行っていないため、潜在看護師がどのくらいで、どのような課題があるのか等の実態がつかめていません。復職に関する課題の分析や求人の際の情報について、求職側と求人側のマッチングが増加するような新たな取り組みが必要であり、神奈川県と連携して潜在看護職の実態把握とともに、復職者が増加するような仕組みづくりを検討します。そして、看護職を目指す若い世代へ看護の魅力を発信して、インターネットやSNS等を活用した正しい情報を伝えることや、看護師になるための分かりやすい情報提供を進め、看護師について興味・関心を持つ若年者に対して相談・支援することで看護職を目指す人を増やし、看護職確保につなげます。

また、定年延長に伴い60歳以上の看護職も働き続けられる場の確保が必要となります。長く働き続けられる職場環境の整備や職場開拓を進めていくと共に、人生設計支援や年金制度等の学習機会を提供しながらプラチナナース（仮称:プラチナナースは定年退職前後の就業している看護職で自分のこれまでの経験をふまえ、持っている能力を発揮し、いきいきと輝き続けている看護師の呼称。公益社団法人日本看護協会より）の移行支援を行います。

さらに、離職防止に向けて、基礎教育機関と連携し相談機能の充実と仕事やキャリアに悩んだ際の職場以外による相談の場や語りの場の設置や広報を行います。

3. 今後の継続教育事業のあり方について

全ての看護職が夢や希望を持ち、一人一人に行き届くような教育内容を検討し、学びたい、知りたいという希望を支援していきます。

Web研修と集合研修を組み合わせながら、より多くの看護職への学びたいニーズを満たせる研修の企画や、他県との共同研修や遠隔地の講師による講義などのeラーニングの有効活用等を取り入れた研修等、魅力ある研修を作っていきます。また、神奈川県看護協会の各支部や委員会で行っている研修との連携も強め、神奈川県内全体が連携して会員を含めた看護職への研修の機会を増やしていきます。そして、看護に関わる専門的な研修だけでなく、長い職業人生の中で知っておくとい研修、自律した生活ができるための研修、ITに関する研修や幅広い知識を得るための研修等人生を豊かにする研修も今後検討します。

また、継続教育の場は拡大し、各病院、大学等やそれに付随した教育センター、各支部での研修等、幅広く研修が開催されています。それらの研修情報の提供をすすめ、学びの場をつなぐ役割を神奈川県看護協会が担います。そして、現在実施している認定看護管理者研修の拡充はもとより、訪問看護ステーションや社会福祉施設で勤務する看護職のマネジメント研修の充実を図ります。さらに、病院や地域を問わず看護の様々なスペシャリストが誕生している状況で、スペシャリストや管理者は相談相手も少なく、孤独になりがちのため、アドバイザーの紹介やコミュニティづくりの支援等、あらゆる看護職の伴走型の支援提供をしていきます。



4. 地域における健康・療養支援の強化

地域で働く人材を確保するために、地域医療・看護について興味を持てるような情報発信や見学・体験研修等が必要です。新採用者や転職者が不安なく地域で就業できるよう受け入れ体制の整備や賃金格差の解消への働きかけ、関係団体と業務改善への支援等を行います。そして、地域の担い手が必要な研修に、いつでも参加できるような受講しやすい体制整備への検討を行い、地域で働く人材の育成と充実を目指します。

4か所の協会立訪問看護ステーションについては、地域を牽引する訪問看護ステーションのモデルとなって活動を推進し、増収の推進、認定看護師の配置等の人員体制強化、大規模化の検討等健全な事業運営を推進します。さらに、県民の健康を維持・増進するために、「まちの保健室」の開催回数の増加や定期開催等事業の拡大、ライフスタイルに合わせた未病対策等を推進していきます。



5. 健康危機管理対応の強化

地震や豪雨等による自然災害が多発している現状に対応できるよう、災害支援ナースの育成増加と災害に関する情報収集活動を行い、いざという時に支援ができる神奈川県看護協会となれるように危機管理体制を強化します。そして、災害支援ナースが安心して活動できる体制の整備を図りながら、より実践的な研修を行います。

また、各施設での感染症に関するBCP作りへの支援やメンタルヘルス事業、感染症対策に関するマネジメント研修や感染管理認定看護師等のネットワーク作りを行っていきます。さらに、今までの感染症対策の経験を分析・評価して、次への備えを具現化し、テロ等の人為的災害にも対応できる備えとしての研修等も行います。そして、県や市と連携して災害リスク管理を高めます。また、看護職が安全で質の高い看護実践ができるよう、安全に関する相談や安全の情報発信、安全研修を実施していきます。

6. 組織基盤の強化

情報収集力の強化を図り、会員に必要な情報を届ける、会員からも情報が届く双方向性の情報交換ができる体制を整備します。また、魅力ある福利厚生や創出や使用しやすい特典割引等を検討し、新たな会員サービスへの取組を行います。さらに、新卒新採用者が加入しやすい優遇制度等の検討や会員同士のつながりが深まる交流会や場づくりを行い、看護職がつながり、集まる神奈川県看護協会を目指します。

新たな取り組みを実現させるには、神奈川県看護協会の組織や事務局の体制について早期に見直し、WebやIT等の情報設備の環境を整えて、学びの場づくりを早期に着手します。

神奈川県看護協会事務局内の組織体制を抜本的に見直し、看護職を支援するための組織づくりに取りかかると同時に、フラットでオープンな職場環境づくりや利用者目線の組織体制の再構築を行い、看護職を支援するための盤石な組織を形成していきます。

おわりに

新型コロナウイルス感染症で世界が一変しました。

この変化の時代を乗り切るためには、自らが変化しなければなりません。

10年後のめざす姿を実現させ、明るい未来を築ける土台作りをします。



III ロードマップ

長期目標…魅力のある看護協会、集まる看護協会

中期目標…情報が一人一人に届く、協会活動がわかる、研修者の増加、就職者の増加、研修や会議環境の整備、利用満足度の向上

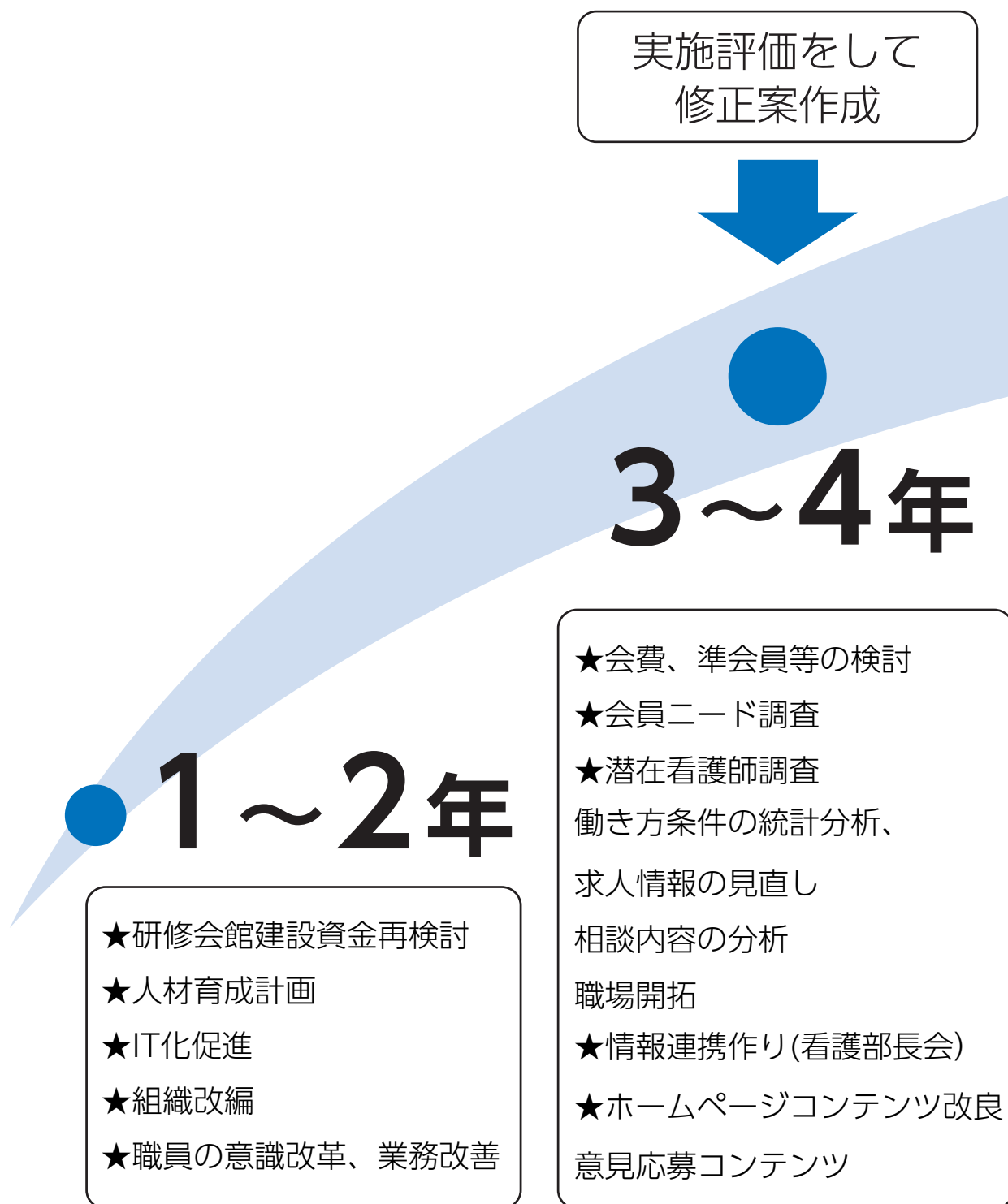
評価・計画修正

	項 目	行 動 計 画	評価指標	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
看護職の確保	ナースセンター認知度向上	広報強化、ホームページ改良、養成校出前講座等	就職件数		➡									
	看護職の確保	職場開拓、働き方分析、出張相談	求職求人数		➡									
		プラチナナース移行研修												
	若年者（小中校）へのキャリア支援	看護師への道窓口	相談件数		➡									
		出張講座の推進と教育委員会へのPR	講義数											
	離職防止と職務継続への支援	潜在看護師調査	実態把握公表		➡									
語り場設置、カウンセラー出前講座		参加者数												
継続教育		研修に関するニーズ調査	実態把握公表		➡									
		オンデマンド研修の作成	満足度											
	効果的な研修の組み立て	魅力ある企画内容、多様な学習の機会	参加者数											
		支部、委員会、大学等との連携研修			➡									
		他施設研修一覧作り												
	地域連携研修	地域病院との研修企画、訪問看護師育成増の計画	研修者数		➡									
	マネジメント研修の検討	認定看護管理者研修の拡大検討			➡									
管理者やスペシャリストの支援	管理者支援企画、スペシャリストコミュニティ企画			➡										

▼

[illegible]

Ⅳ 具体化計画





5～10年

訪問看護事業検討



ジョーさん



めいちゃん



りつくん



ジョーさん

★は早期検討内容